私は67年入学、学生運動の高揚

た私は、先輩研究者たち 大学院修士課程に進学し

1972年、京都大学

第1364号 立大学協会元専務理事 **本健慈** 和歌山大学元学長、

り、芸術的であったり、個性的で魅 夫さんという名も聞いたか、お会い 井保先生をはじめ、豪放であった と奥丹後教組、峰山、久美浜にしば 力的な人々と出会いました。古村義 しば行きました。 本書に登場する池 した気がします。

貴兄はご自身を「大衆運動的経営

2008年3月、ワーカーズコープ 国子育て協同研究集会に招かれ、貴 兄の進行でパネルディスカッション や協同総合研究所等主催の第1回全 る過程で労働者協同組合に出会い、 所に出会い、「共同」「協同」を深め したので永戸さんとはすれ違いです。 は全学連中執に。私は71年3月退任 ていた京都府学連を再建。8月両名 ら小畑力人が出て、執行部が崩壊し 期。70年3月私が京大から、立命か 8年、私は無認可アトム共同保育 生きていきたいと思います。

協

労

本

日

協同労働がつくる 資本・雇・で 何か! 「何か!」

本格的な出会いでした。 をやりました。これが再会であり、

経営者的魂もつアクティビスト

玉

とも思い出します。 村氏のパーティなどにご一緒したこ も在京で、国立大学議連で世話にな ん、古村伸宏さんなどに頼まれ、河 った河村建夫氏の紹介を山本幸司さ 労働者協同組合法制定の時期、

ら、アクティビストとしての人生を 兄の志を胸に刻み、志を重ねなが に合ってよかったと今思います。貴 とのこと、残念ではありますが、間 数日前のベッドでふれていただいた 的魂をもったアクティビスト」とい と思います。貴兄でいえば「アクテ 規定をすれば、「アカデミズム魂をも 動での経験や学びを社会、歴史に還 うことでしょうか。私的生活や諸活 イビスト魂をもった経営者」「経営者 者」と言っていますが、私は学長時 元されたことに敬意を表します。 ったアクティビスト」ということか ってきました。いま振り返って自己 代、「社会教育実践的大学経営」と言 以上急いで書いた手紙を亡くなる

> は考えられない。さらに、社会連帯 家としても活躍した。数年前の労働 労で組合運動に参加。その後、労働 理論の活性は人格、生き方から 者協同組合法成立は永戸さん抜きに 者協同組合の運動の中心にいて理論 太田政男 /とつ下だと思う。 学生運 動で活躍した後、全日自 大東文化大学元学長 永戸さんはぼくよりひ いたという。

その後、出版されたばかりの著書

関心を持ち続けた。

事を出す前に亡くなられた。申し訳 や生き方から来ると思う。お礼の返 け来るものではなく、その人の人格 ない。早すぎる。 理論の活性は、理論や研究からだ

思っていた。 2カ月ほど前か、社会連帯機構が

思わず手を貸した。身近にいたIさ りるとき、足元がおぼつかなくて、 かった。開会あいさつの壇上から降 テロイド治療で荒れた指先も痛々し って死にかかったと話していた。ス った。席が隣だったので、肺炎にな 主宰する沖縄問題の集会があり参加 たぼくのブログ記事を喜んでくれて んの話では、その集会について書い した時に会った。退院したばかりだ

提出された「レイドロー報告」)を紹介され、

撃を受けたと述懐しています(第4章)。

合』(1980年の国際協同組合同盟大会に

こいる時、労働者協同組合の現代的意義に 一代初め頃、今後の事業団のあり方を考え

力がありました。永戸さんは、1980

いて書かれた『西暦二〇〇〇年の協同組

参加無料

B3出口(徒歩0分))

佐高 信

る。永戸さんは、虐げられた人々の 異端と見られることも多く、社会主 ウェン以来、社会主義の正統からは 生きる人、虐げられた人々の問題に を燃やした。一貫して社会の底辺に 義以上にユートピア的なところもあ 機構を創設し、沖縄問題などに執念 もともと協同組合運動はR・オー うくだりなどは、その後のリーダー と「必勝の信念を植え付け」たとい 集落同士の喧嘩のときには「ガキ大 共同体社会では「よそ者」だったが、 送られてきた。奥丹後の村での幼少 将」として「怯えたほうが負ける!」 期のことも書かれている。閉鎖的な 『協同労働がつくる新しい社会』が

運動の経験もあったのだろうが、む た。演説が抜群にうまかった。学生 践でも理論でも果敢に挑戦し続け 視線から、現実の必要を直視し、実 しろ理論の活性から来るのだろうと としての面目躍如である。

永戸さん出演の「佐高信の隠し味」も公開されました。 『協同労働がつくる新しい社会』(旬報社)の感想と、 日本社会連帯機構代表理事の永戸祐三さんが7月16日 を読む 悼 無念である。 .be/alWe0sqaMT4

事をし、社会や地域に貢献していると自 なかでこそ、民主主義が育つし、良い仕 だ。だから主体的に良い仕事を追求する 社会に有用な仕事をしたいという気持ち 働き方ではないかとも言います。それは が高まってくると言います。そんな中 信をもって言えるようになると、もっと で、協同労働は第一次産業に最も適した 協同労働という生きかた

も進出しますが、「市民団体に全責任を負 当たっている気がしますね。 福祉や子育て、生活困窮者支援事業に

青竹 常勤顧問 裏には´自らとことん考える、努力 豊 日本労働者協同組合連合会

身につけたわけです。 る。そうすれば相手も受け止めてくれる。 ですが、永戸さんは運動経験と勘をつうじ ことだと語っています(第5章)。これは、 力です。その秘訣は、「自分の思いは腹蔵な 合いする中で感じてきたことでもあります。 心理学で言う「ラポール(共感)の形成」 く言う。同時に、相手そのものを受け止め 1つは、相手との信頼関係をきずく人間 間でしたが、永戸さんとお付き つ紹介します。これらは、 本書から感銘を受けた点を2

の熱い語りの裏には"自らとことん考える" もう1つは、徹底した思考力。永戸さん

企業だったかもしれない』とも。労働と資

シンポジウム『協働労働がつくる新しい社会』

シンポジスト: 永戸さんと私…汐見稔幸、池山吉之助、田中羊子、山本幸司

の本質的意味は「労働が全てになる」、ひい

ては「自らを社会となす」に挑戦すること

にはないかと、最終章で提起しています。

加えて、かつての日本企業は『労協的な

を担う選択肢である、とした。この「労働

資本を雇う」について、永戸さんはじつ

から何を学び、

連合会館(東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」

44年にわたって考えてきた。そして、そ

のであり、今後の産業社会で大きな役割

が、労協は反対に「労働が資本を雇う」

革命で「資本が労働を雇う」ようになっ

未来を拓くのか

特別参加

レイドロー報告は、18世紀に始まった産



受断が大変悔やまれます。 にめにはどうすべきかなど、とことん考え 別にも、資本形成やガバナンス(経営管 います。その重要な選択肢である「協同労 り方をどうするかはますます重要になって 社会問題を解決していく上で、労働のあ りません。 こは、「協同労働」であることは言うまでも sうとしたのではないか。 この場合の労働 いば労働が資本を包摂するものとして捉え どの関係について単純な対立でなく、い 、ャレンジすべきことも多く、永戸さんの 、そして「社会となす」(一般化する)

旬報社主催

9月12日(金)、18時30分~20時40分

と言ってミスがあれば、支払いを遅らせ たり、委託を打ち切られる。確かに、こ 権限は与えない、委託料も増えない、か は何か」と問います。評価もされない、 わせ、行政が責任から逃げる 連帯機構」を創設します。 をみんなが連帯することで打開しようと れでは真っ当な仕事はできません。これ します。そんな思いもあって 日本社会 公共』と

国家の直営、官がやるものと思われてき 最後に永戸さんは「これまで て公共とは

を考え続けたいと思います。

る、社会をそういうものとして作り上げ 地域を公共の器にする、公共の砦にす いく」と。志が高いですね。 ることが私たちの中心的な課題になって 者が作るものだ。この法律を活かして、 たが、本当の公共とは市民が作る、働く

にはどうしたらいいか、結論のない問い います。いろんなことを学びました。働 くとはどういうことか、地域を良くする 私自身もこの運動に少しだけ関わって

(3)

2024年11月5日

はない永戸さんの自伝。これまでの経過 労働者協同組合の顔と言っても過言で

新潟ろうきん福祉財団専務理事 ット主催の新潟協同集会で、 何年か前、にいがた協同ネ

結論のない問い、

考え続けたい

む言葉が引き続き寄せられています。 に急逝しました。亡くなる前に著した

や歴史、心情までがこと細かに記されて

学連の委員長までやってしまいます。私

いて、そうだったのか!ということがた

は、

全学連と全共闘の違いもよくわかっ

日本労働者協同組合連合会元理事長、

|さんを悼み||協同労働がつくる第し

しい

本

全

全

戸さんと直接お会いすることはできませ のオンライン対談を拝見しましたが、永

高校時代を経て、中央大学夜間部に入

ふれた中学時代、学費値上げ反対闘争の 永戸さんは、自由な少年時代、憲法に

> 私的集団であり、暴力で大学を支配しよ 全共闘は一部の「戦闘的」な学生たちの

自治会総連合」の略称であるのに対し、 制学生自治会の連合組織で「全日本学生 ていませんでしたが、全学連は全員加盟

用されてきたとのことです。なるほど。 うとして、学生運動を破壊し、権力に利

学。学生運動にのめり込み、とうとう全

現場で民主主義が機能しているかどうか

労働者協同組合も成長の鍵は、労働の

永戸祐三さんと斎藤幸平さん それにしても、すごい人生ですね。一貫 くさんあり、とても刺激的な本でした。 か?資本とは何か?について自らの身体 を張って理解した内容が記されています。 して働くものの立場にたち、労働とは何